



社会教育便り

幡多地区文化財保護連絡協議会研修会

令和4年11月2日大月町役場と柏島で、幡多地区文化財連絡協議会の総会・研修会がありました。この会は、幡多地区市町村文化財保護審議会委員及び文化財担当者が一堂に会し、地域の文化財について認識を深めることによって、その資質の向上に資することを目的としています。以下の内容で研修を行いました。

- 研修Ⅰ 講演 「月山神社遍路道の保存と子ども教育」
大月町郷土民具資料館 学芸員 岩瀬 文人 氏
- 研修Ⅱ 現地研修「柏島の文化財と観光振興」
大月町観光ガイド会 会長 浜岡 満 氏
高知文化財研究所 代表 溝渕 博彦 氏

月山神社について話す岩瀬さん



岩瀬様より、月山神社の歴史やそこが八十八箇所番外札所としてのお遍路さんが訪れる場所という紹介がありました。そして復元された遍路古道が学校教育に活用されていることについて、子ども達の活動している様子を提示しながら説明していただきました。

岩瀬さんの話に関心している参加者



6市町村から文化財保護審議会委員と文化財行政担当者の35名に参加していただき、熱のこもった研修会になりました。

石堤の説明をする浜岡さんと参加者



浜岡様より、柏島の文化財や生活文化について話をしていただきました。柏島の石堤、坊さんかんざしで有名な慶全の墓（護念寺）、正月明けの1月14日に行われる綱引き行事等を現地に行き説明をしていただきました。参加者は興味津々な様子で話を聞き、質問をしていました。

稲荷神社の獅子について話す溝渕さんと参加者



溝渕様より、稲荷神社の構造や装飾に込められた当時の方の思いや意味について説明していただきました。エジプトのスフィンクスがシルクロード、朝鮮を経て唐獅子として日本に伝わり、魔除けとして屋根の上に載っていること等詳しく話していただきました。そして「文化財はその時代に造った人の思いにいかに入り込んでいけるかが重要なことなのです。」と文化財について学んでいく心構えを教えてくださいました。